令和 8 年度 第一回 ネイパル足寄運営協議会 議事録

日時　令和 8 年 10 月 13 日(月)16:00～17:25

場所　北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄

出席者　（敬称略）飯沼　聖広、喜多　徹、大鳥居　仁、管野　聡、川上　修一、
阿部　昌己、沼田　信二、小林　雅子、高道　洋子、安藤　達郎

事務局　局長　三間　順一　　局次長　田中　絵美　　局員　佐藤　奨弥

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課　社会教育主幹　熊谷　圭志

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課　社会教育主事　堀井　陽太

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課　社会教育主事　齊藤　昌義

1. 概要

運営協議会において、令和 8 年度の委員・スタッフ紹介および委員長選任が行われた後、施設の運営方針と上半期の実績報告、各種事業や施設利用に関する意見交換、さらに若者育成や今後の事業展開に向けた議論が実施されました。

2. 施設運営の基本方針と実績

- **基本方針**: 「応援」「交流」「進化」の 3 つを掲げ、顧客の声を迅速に取り入れた運営を推進しています。
- **環境整備・サービス**: 全面導入に向けた Wi-Fi 整備などの ICT 環境を向上させているほか、接客マナーの全国選抜コンテストで優勝する実績を挙げています。
- **民間活用・事業展開**: 気球・スノーモービル等の自然体験、養護学校やひとり親向けの体験事業、企業・スポーツ団体の誘致など民間ノウハウを活用した取り組みを進めています。
- **利用状況・稼働率**: 日帰りおよび宿泊利用（特に 8～9 月）が好調に推移し、上半期の部屋稼働率は基準の 60%を超える 64.8%（80%を超える月も存在）を記録しました。

3. 施設利用および事業に関する意見交換

- **施設利用環境・空調**: 近年の猛暑を踏まえ、夏季の熱中症対策としての空調・エアコンの充実や、周辺施設（総合体育館やプール等）との連携・減免制度の活用に関する意見が出されました。
- **地域別の利用動向・課題**: 小中学校の宿泊学習における地域別傾向（帯広市は少なく北見・網走方面が多い等）や、企業の長期インターンシップ受け入れ時の運用（早朝・夜間の出入り等）に関する課題が共有されました。
- **インクルーシブ事業**: 年齢や障害の有無を問わず世代間交流を図る「とかちのフードアレンジ」（お酒・食・音楽等をテーマとした事業）について、試飲・試食だけでなく「十分に飲んで食べられる」満足感を明確に打ち出す具体的な告知方法や集客改善策が議論されました。

4. 若者育成と今後の取り組み方針

- **ジュニアリーダー養成事業**: 中学生や高校生を対象にリーダー養成や街の魅力を発信する PR 動画制作（クリエイティブチャレンジ）の構想が提示されました。子供たちの発信意欲やスキル向上と連動させたアプローチが提案されています。
- **ボランティア参加システム**: 地域ボランティアの高齢化・メンバー減少への対策として、若い世代や中高生が部活動や友人関係と両立しながら継続的に参加できるシステムやプログラムの構築が求められました。
- **事業価値と料金設定**: 無料事業が多い地域特性から有料化への心理的ハードルが指摘された一方、価格に見合う満足度と事業価値を高めることで、少人数であっても価値ある事業として継続していく方針が確認されました。

5. 次のステップ（具体アクション一覧）

運営協議会での意見交換を踏まえ、今後の展開として以下のステップを進めます。

- **ボランティア募集**: 地元の高校生や中学生に対して、ボランティア活動への参加を積極的に働きかける。
- **教員招待**: 地元の学校教員に対して、施設プログラムへの視察や参加を促す。
- **イベント広報**: フードアレンジ事業の集客に向け、チラシへの詳細記載やターゲットに応じた具体的な告知手段・表現の見直しを行う。
- **事業改善**: 若手育成向けの動画制作プログラム（参加促進や訴求ポイント）を改善・強化するアイデアを提案・実行する。
- **予算化・単価検討**: 市町村でのジュニアリーダー養成の予算化や、助成金・参加補助単価の見直し、定員枠（募集の打ち出し方含む）の調整を検討する。
- **ボランティア制度構築**: 若者が地域活動に継続して関われるボランティアシステムの仕組み・プログラムを構築する。
- **自治会連携強化**: 連合自治会長や少年指導員等と協力し、自治会単位での研修費用活用や地域貢献の取り組みを深める。
- **修学旅行・キャリア教育連携**: 小中学校の学習や修学旅行と連携し、動画制作や二次元コードを活用した地域 PR 企画の実現可能性を検討する。